いて杖でもついて居る人を呼べ』『ヘエ、かご』『誰に言ふてるのや』『今此處杖へついて行た人』『あれは四國詣りの乞食やがな、荷物でも持つて居る人や』『ヘエかご』『それは糞取やがな情ない奴やなア……オイチヨイと雪隱へ行つて來るよつて、能う氣を付てよ、居眠りばかりして居んと、宣いかへ』『宣しや、承知だ……ヘエ旦那、お駕籠は何うですな、ナアモシ、平作ぢやアござりませんけれども、朝から錢の顏などは、一文も見ませんよつて安う遣附けます』『マア宜い』『然仰しやらんと何うか一つなあ旦那』『コレ、袂も引張つたりするない』『ヘエ旦那、袂を引張まして濟みまへんけれども、なか〳〵當時のお客は酷うござりますので、口で賴んでも乘つて呉れませんのでマア袖や袂に取縋り、お賴み申しますので可憫いものだす、何うかお乘りなすつて、人間二人助かることだす、何うかお賴み申します』『ム、宜し、人間二人助かる事なら乘つてやる、其處避け』『ヤア大きに有難う』『サア乘つた是れで宜いか』『ヘエ結構でござります、エ、旦那、何方へ行きますので』『何處までなと汝の好いた所まで遣れ、乘つて呉れと賴んだよつて乃公ア乘つたのや、乘つたら賴まれた顏は立つて居るぢやアないか』『左樣な、ヂヤラ〳〵と、行先分らんで闇雲に駕籠は舁げません何ならお宅まで遣らせて貰ひましたら結構だす』『サア乃公も家まで遣つて貰ふたら助かる家まで遣れ』『ヘエ、お宅は何處だす』『筋向ひの葦簀圍ひの茶店まで遣れ』『ヘエ向うで一服なさるので』『向うで一服する位なら此樣駕籠に乘るかい、彼れは乃公の家ぢや』『ヘエ……モシ旦那いな、嬲つて遣つてお呉んなさんな』『何が嬲つて居るのぢ

や』『でも貴方、此處から向ふまでなら、何も駕籠に乘らいでも、歩いてお歸りなすつたら宜いぢやありまへんか』『乃公は歩いて歸る積りだか、人間二人助けると思ふて乘つて、呉れと言ふたから乘つて遣つた、サア乘つた以上は、縱ひ三歩が四歩で家へ這入れる處にもせよ、駕籠に乘つて行くのぢや、サア遣れ、遣らんか、コリヤ一遍前へ廻つて乃公の顏を篤くり見ろい、ム、汝の面に二ツ光つて居るのは其れは何んや』『ヘエ是れは眼でござります』『ナニ眼……見へる眼か、見えぬ眼か、但しは面の飾りか、コレ、日に一遍でも二遍でも、煙草の火を貸して呉れ、時によりやお茶の一杯も呑して呉れと言ふて這入らぬ日はないのに、夫れに乃公の顏を見忘れたのか、間抜け奴が、汝等のやうな駕籠屋が何時の間に湧いてうせた、また乃公處へ休むお客はナア茶碗酒飮んで䬵嚙つて、天保錢投り出して端下錢の釣錢でも持つて去かうと云ふ人ばりぢや、左樣な人を捉まへて、無闇にヘエ駕籠、ヘエ駕籠と勸めやアがるよつて夫れで厭がつて乃公處へ休む客も休まぬやうになるわい糞ツ垂れ奴、氣を付けんと汝れの足と頭を持つて糞結びに結ぶぞ』『オイ相棒、早う來て呉れ、是りやア甚い人を駕籠に乘せた……』『コリヤ、其方へ避け……モシ何うぞ親分御了簡なすつて下さい、此奴は漸う四五日前に此街道へ遣つて來たので、貴方樣のお顏を存じまへんので、甚い相濟まぬことで、お腹も立ちませうが何うぞ御了簡なすつて下さい』『汝は其處にけつかるのか』『ヘエ、チヨイと雪隱へ這入て居りましたので、誠に何うも濟まぬことでござります』『此頃出てうせた奴で顏を知らんとあれば堪忍して置いて遣るが